

## モンドリを用いたチャネルキャットフィッシュ幼魚の採捕

石崎大介・田口貴史・根本守仁

### 1. 目的

近年、県内において特定外来生物チャネルキャットフィッシュの確認数が増加している。現在、本種の多くは延縄により採捕されているが、徹底的な駆除のためには他の採捕方法の検討が必要である。

### 2. 方法

チャネルキャットフィッシュのモンドリでの採捕の可能性を検討するため、本種が多数生息していると考えられる瀬田川の洗堰下流の水深 8.3~9.3 m にモンドリ (72 cm×54 cm×38 cm (H)、目合い 13 mm) を 2019 年 5 月 21 日~26 日まで 4 個設置した。エサは冷凍のアユおよびイカを用いた。

また、詳細な採捕条件を検討するため、瀬田川の洗堰上流において 2019 年 5 月 27 日~12 月 6 日まで 16 回、のべ 103 個のモンドリを用いて調査を行った。設置水深は岸際から河川中央の 1.0~8.5 m で、設置期間は 1~14 日とした。なお、8 月 5 日までの調査では岸際の低水深に設置し、河川中央の深部にも設置したのは 9 月 5 日からの 11 回の調査である。同時設置個数は 4~9 個で、エサは冷凍のアユを用いた。

### 3. 結果

洗堰下流での調査の結果、2 個のモンドリで合わせて 8 個体が採捕された。これらの個体は標準体長 97~123 mm の幼魚であった。2019 年に延縄で採捕された最小個体は体長 167 mm であり、モンドリではそれより小型の個体が採捕されたことから、モンドリにより幼魚の発生を早期に把握し、対策を行うことができると考えられる。

洗堰上流での調査における採捕尾数は 12 個体で、のべ 9 個のモンドリで採捕された。

これらの個体は 156~258 mm の幼魚であった。本種が採捕されたのは 9 月 6 日~11 月 21 日で、1 個のモンドリにおける最大同時採捕尾数は 3 個体であった。水深 6.8~8.5 m の河川中央の深部に設置したもののみで採捕された (図 1)。採捕された設置期間は 1 日間がのべ 7 個と 14 日間がのべ 2 個であった。このことから幼魚の採捕にはモンドリを深部に設置する必要があり、設置期間が 1 日でも採捕できると考えられた。

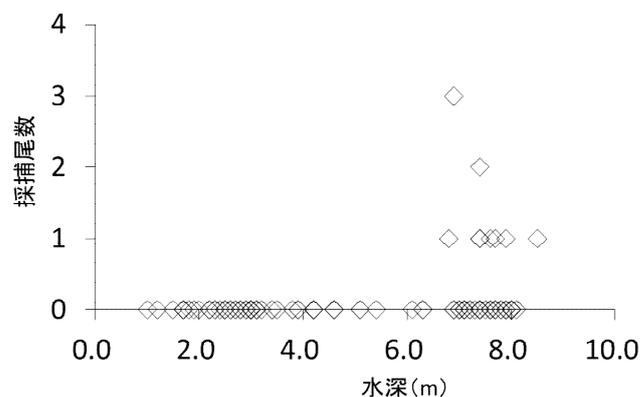


図 1. 水深とモンドリ 1 個の採捕尾数の関係